

# 米の食味会を開催

5月の農業委員会定例総会のあと、『米の食味会』を催しました。初めての試みです。きっかけは農業委員数人の会話でした。

委員のひとりが「通常の農地法による審査だけでなく、何か地域に密着したことをやってみてはどうか」と話したところ、他の委員が「豊後大野市には、緒方米や綿田米などのように、地域の名前がついた米があって、おいしいと言われているが、生産地が違うことでどのくらい味も違うのか食べ比べをしてみたい」と話が盛り上がり、周りの委員も賛同し

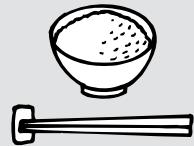
早速、後日、農業委員会に「米の食味会」の開催が提案され、農業委員の活動の一環として、実行委員会を作つて、開催することが決定されました。

開催に関しては、条件を統一するため、以下の要件を設けました。

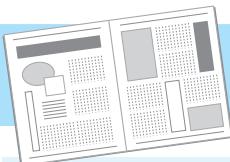
- ① 7町から各ひとりの委員が米を提供する。
  - ② 町名を明かさず1～7の番号で表示する。
  - ③ 同量の米を同じ条件で研ぎ、同時に炊飯器で炊く。
  - ④ 少量を器に盛り、試食してもらう。
  - ⑤ 外観・香り・粘り・歯ごたえ・味の項目で評価し、一番おいしいと感じた米の番号を書き、投票する。

当方は、女性農業委員や職員にも協力してもらい行いましたが、いざ試食をすると、どの米も美味しく感じられ、甲乙つけがたいため、委員の皆さんも困った様子でした。

開票の結果、犬飼町の柴北地区の委員から提供された米が、他の町の米とわずかな差で一位になり、最後に、おいしい米を作る秘訣を聞くと「きれいな水と豊かな土壌（粘土質）が一番」とその委員。「豊後大野市の米は美味しいんやから、もっとよその人にも知つてもらわんといかんなあ」とも話していました。



# 全国農業新聞を購読しませんか？



全国農業新聞は、「暮らしと経営」に役立つ情報を届けます。農業に関する最新技術・新製品や新品種、全国各地で活躍する農業者の工夫やアイデア等、農業に役立つ情報を紹介しています。

1週間に1度、農業・農政情報を届けします。

■金曜日発行／月700円  
■年間／8,400円（消費税込）

● 講読の申し込みは )お気軽にご連絡ください。(

豊後大野市農業委員会事務局へ

**☎ 0974-22-1001**

農業は天候により収入の歩留まりが極端に悪くなる。工業製品ではないのだ。しかし作業効率の良い機械投資がなければ、地域の耕作維持が出来なくなるのが現実だ。農業は左様に高コストにもなる。更に狭い区画の農地で畦畔が広く草刈や水路管理に手間がかかる中山間地域、それでも農業は自由があり自然の景観に心豊かになり、無理をしなければもつと楽しい。兼業農家も高齢者も含め、さまざまな扱い手によつて守られてこそ、地域農業は継続可能である。

工業の論理ではなく日本の原風景を守る政治を期待したいものだ。

農業農村の果たしている役割は、食料の提供にとどまらない。水を張った水田や米が実った田んぼは日本の原風景だ。耕作が行なわれなければ、里山の景観も失われる。土地条件の恵まれない中山間地域の農業は一番先に TPP によって影響を受ける。グローバルな自由競争のもとで更に担い手が減少・淘汰され自給率が下がるのではないかと懸念される。農家は将来の農業・農地の維持に対する不安が大きい。低米価により現状のままでは地域農業の先行きが展望できないことを多くの人が認識している。又この課題に対する有力な解決策の一つが集落営農であることも知っている。

# 農政マガジン

農業委員の活動から